



東京キワニスクラブ 会長の抱負

2016年11月から2017年11月まで会長を務めることになりました棚澤青路でございます。どうぞよろしくお願いたします。

新年互礼会の際には、私は自分の足の骨を折っての参加でしたが、皆様のご協力のおかげで盛会に終えることができました。ありがとうございました。

任期中、自分の骨を折らず、微力ですが、キワニスで骨を折らせていただく覚悟ですので、どうぞよろしくご指導ご協力の程、お願い申し上げます。

今年度も「子ども最優先」をモットーに会員相互の交流と研鑽を深めて行き、無限の可能性を秘めた未来を目指す子ども達に、いま私達キワニアンが出来ることを一つずつ実行して行きたいと思えます。

東京キワニスの例会での講師の方々からの学びも多いですが、会員の皆様からのお教えや気付きも素晴らしいものです。「キワニス」の良さを皆様に伝え、入会していただけたら望外の幸せです。お互いに明るく楽しく仲間づくりをして参りましょう。

「キワニスドール」の作成、寄贈、「キワニス子ども食堂」、



「キワニスカンたん子ども料理教室」の開催等々の奉仕活動やレクリエーション活動も行っております。

また、下記の大会にも参加して参りましょう。

- ・第42回アジア太平洋会議 (ASPAC) 濟州大会 (2017.3.9-11)
- ・第102回国際キワニス年次総会パリ大会 (2017.7.13-16)
- ・第41回日本地区年次総会松江大会 (2017.9.8)

(棚澤青路会長)

児童虐待防止オレンジリボンたすきリレー応援に参加して 2016.10.30

11月は児童虐待防止推進月間です。この啓発活動として毎年10月最終日曜日(今回は10月30日)に児童虐待防止オレンジリボンたすきリレーが開催されます。



当クラブはこのイベントの後援・協賛団体として第1回から参加、寄付のほかりレー、チラシ配り、会員企業からの飲料提供等の協力をしています。

今回、当クラブのたすきリレーのランナーとしては、これまでのJUNKO Associationのメンバーに加え、サークルK武蔵野大学の学生8名が新規に参加してくれました。JUNKOがスタート地点の渋谷ハチ公前から東京タワーまでを、サークルK武蔵野大学が東京タワーから泉岳寺までの区間を担当、それぞれ見事に完走しました。

朝9時、渋谷ハチ公前では棚澤副会長と田口徹会員がJUNKOのメンバーの激励に駆け付け、元気にスタートするまでを見送りました。また、東京タワーでは、吉國会長、石井事務局長、星利樹会員、小坂元会員、伊藤一實会員、荒木なぎさ会員が集まり、JUNKOの出迎えとサークルK

武蔵野大学の激励を行いました。さらに、泉岳寺では吉国会長と新木資明会員が出迎えを行っています。

ランナー出発後の東京タワーでは、観光客等に対する児童虐待防止キャンペーンのチラシとオレンジリボン配りです。ここでの主役としては、荒木会員のお二人のお子さんと伊藤会員のお孫さんに登場いただきました。ただ、当日は気温が急激に下がって肌寒い天候になり、観光客もまばらという状況から、この作業は早めに切り上

げざるを得ませんでした。厳しい天候の中で頑張ってくれた荒木会員のお子さん達と伊藤会員のお孫さん、応援に駆け付けてくださった会員の方々に心から感謝いたします。また、尾崎会員と木本会員のサッポロホールディングス株式会社様からは、ランナーに配布するスポーツ飲料を寄贈いただきました。合わせて厚く御礼申し上げます。

(ボランティア活動委員会副委員長 細田久雄)

願いをカタチに 児童虐待防止オレンジリボンたすきリレーに参加して 2016.10.30

少し肌寒くも感じられた10月30日の日曜日。サークルK武蔵野大学 Connect のメンバーは、ランナーとして児童虐待防止オレンジリボンたすきリレーに参加させていただきました。東京のシンボルである東京タワーから泉岳寺までの区間をしっかりと踏みしめながら駆け抜けました。武蔵野大学は仏教校であり、お寺を目指して走るといのは、どこかご縁を感じました。普段、なかなか運動をする機会がないメンバーも、いい汗を流せたことと思います。ペースも上がってくると、少し苦しそうな表情のメンバーもいましたが、全員泉岳寺にゴールすることができ、その達成感は私たちの一体感を高めました。私たち武蔵野大学のブランドステートメント(宣言)は「世界の幸せをカタチにする。」です。子ども虐待防止



への市民への呼びかけとその実現を目指すオレンジリボンたすきリレーにランナーとして参加できたことは、その具現化の一つです。社会問題の解決は容易なことではありませんが、リレーというカタチで楽しみながら人々の願いをカタチにすることは、とても幸福なものだと思います。このような機会に恵まれたことに感謝申し上げます。そしてこれからも、私たちは世界の子どものための明るい未来と笑顔と幸福のために精進いたします。

サークルK武蔵野大学 Connect 近藤翔真

オレンジリボンたすきリレーを走って

私は東京タワーから泉岳寺までリレーの走者として走ったので、ピラ配りがどのように行われているかはわ

かりませんでした。オレンジのたすきをつけて走ることによっても、オレンジリボンって何だろうと思って調べてくれる人や、児童虐待のことについて少しでも関心をもってくれる人が一人でも増えたらいいなと思いながら走っていました。

私は大学で心理学を学んでいて、児童虐待の話も授業でよく聞きます。暴力をふるう大人が悪いのに、子どもは自分が悪い子だったからと自分を責めてしまう。そして大人になってもトラウマへのさまざまな反応がでてくるという話を聞きました。目に見える傷はもちろん、心の傷も大人になっても消えることはありません。その子の一生を狂わしてしまいます。そんな児童虐待を少しでも減らし、子どもたちが安心して暮らせて、夢を持てるような社会をつくってあげたいと思います。その社会をつくっていくのは、これからの日本をつくる私たちの世代だと思うので、少しでもその力になれるといいなと改めて思いました。

サークルK武蔵野大学 小島加帆

オレンジリボンたすきリレーに参加して、私は子ども虐待防止の呼びかけのためにこのような活動をしている人がいるということを知ることが出来ました。今まで子ども虐待について考える機会がなかったけれど、今回このオレンジリボンたすきリレーを通して、考えるきっかけとなりました。たすきリレーをすることで、すれ違う人に呼びかけができ、少しでも子ども虐待について考えてもらうことの出来る活動であると感じます。子ども虐待はただ暴力や暴言をしているだけだと思っていたけれど、気づいたらそうしてしまった人や、育児に悩んでいる人がそうしてしまったのであることを知りました。この子ども虐待の問題は周りの協力が必要であり、親子を支えていかなければならないことであると思います。自分に関係のないことだと思ってしまうけれど、社会全体で考えなければならない問題であると思いました。この活動を広げていき、子ども虐待がなくなる社会にしていきたいと思います。

サークルK武蔵野大学 田中沙弥香

オレンジリボンたすきリレーに参加して

今回、サークルK 武蔵野大学のキワニアンとして初参加をさせていただきました「オレンジリボンたすきリレー2016」。仲間たちと、第2区のスタート地点である東京タワーから、泉岳寺まで走らせて頂きました。走っている間は、オレンジのたすきを身に付け、都心を走り、児童虐待をなくそうという意志のこもった走りがとても有意義で素晴らしい時間であるとともに、私たちの走る姿、見せ方には気を配らなければいけないと感じました。しかし、実はこの様な児童虐待撲滅運動が行われているということは、僕自身含め、他の友人たちも全く知りませんでした。初めて、キワニス関係者の方からお誘いがかかり、このマラソン大会の存在を知りました。もちろん肉体的な虐待は後を絶ちませんが、現在はテクノロジーなどの発達により、児童虐待は類をとどめず、ネット上、間接的な虐待の形も増えているのだらうと感じています。そうした中で、ネットや新聞などの媒体を用いるのではなく、こうして私たち自身が公共の道路や、市街を走り、直接的に伝えようとする事で、オレンジリボンの意義の理解を得られることもでき、こうした活動をしている方がいるということも公に知っていただける素晴らしい機会だと感じた。実際のところ、走っている間は「児童虐待を訴えよう」という気持ちはなく、単純に楽しく仲間と共に完走をしようと、「スポーツ」としての意識を持ち、走らせて頂きました。「訴える」ために走るのではなく、「スポーツ」というアクティビティに組み入れて活動を行い、注目をしてもらおうというスタイルがとても素晴らしいと感じました。



僕自身、毎月児童養護施設での活動を継続的にやっており、マラソンに参加したことで、この様な素晴らしい活動も並行して行っていきたいな、と強く感じるきっかけになりました。貴重な体験をさせて頂きまして、本当にありがとうございました。

サークルK 武蔵野大学 三浦 匠吾

今回初めてオレンジリボンたすきリレーに参加させていただきました。私は今回参加するまでこの活動について知りませんでした。子ども虐待防止のために多くの人

が動いているこの団体を知り、参加できて本当によかったです。

今回のイベントではみんなが一同となってたすきをつなぐという1つの目標に向かって全力で走りました。ペースはそれぞれでも、一人ひとりが自分のベストを尽くしました。私はここから、遅かれ早かれ一人ひとりが一生懸命努力すれば目標を達成できることを学ぶことができ



ました。

子どもへの虐待は決してあってはいけないことです。誰もがわかっているはずのことなのに、毎日のニュースの中から残酷な虐待のニュースが消えません。私はこの活動がもっと多くの人に伝わり、子どもへの虐待をする人がひとりでも多くいなくなることを願います。私1人ではできることが少ないけれど、この活動を周りの人に広めることや活動に参加し続けることで子ども虐待防止に貢献していきたいと思います。

サークルK 武蔵野大学 船橋悠真

私は走ることが苦手で、走る前までは少し不安を感じていました。しかし第1区の皆さんの走り終えた顔を見て、この企画に対する気持ちが変わりました。皆さん少し辛そうながらも笑顔で楽しそうに走って来られて、その姿を見て自分の意識も上げることができました。そしてリレーの目標でもある〈虐待防止〉のたすきを掛け、楽しくスタートを切ることができました。自分が思ったより速いペースで少し驚きましたが、皆で声を掛け合っていたおかげかあまり辛さを感じませんでした。それに加え、走りながら地元の方々から「おはようございます」と挨拶をしたので、地元の方々からも元気をもらい、ランナーだけではなく周りの方とも一致団結できた気がしてとても嬉しかったです。

完走した後、あまり好きではなかったリレーにも関わらず、「もっと走りたい!」「また絶対参加したい!」と思えるほどとても素晴らしいものでした。この企画をもっと皆に知ってほしいと心から思いました。私達が走ることで虐待を減らすことができればいいなと思いました。

サークルK 武蔵野大学 榎原舞

「子ども食堂でチャリティシンポ！」に参加して 2016.12.11

「子ども食堂でチャリティシンポ！」は、東京キワニスクラブとNPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークの協力のもと、実行委員会は学生のボランティアのみなさんが中心になって、12月11日に開催されました。

今回の企画は、イベント名が示す通り、子ども食堂その



ものの開催に加えて、子どもの貧困についてのシンポジウムを行うというものでした。そのため、子どもたち30名ほどの参加のほか、大人の参加者は、お母さん方が約10名、立教大学の学生を中心としたボランティアが約40名、その他のシンポジウム参加者が約70名となりました。

第一部は子ども食堂で、学士会館精養軒さんのご協力による特製カレーや果物のデザートを子どもと大人が一緒にテーブルで食べました。始まる前にはサンタさんも登場（キ

ワニスの会員が扮しています）、食事中には本場ハワイ出身のファミリーによるフラダンスも披露されました。子どもたちものびのびとふるまっていて、とくに元気の子からはフラダンスに「アンコール！」の声がかかっていました。

第二部はシンポジウムとグループトークで子どもの貧困を考えようというセッションです。このときは、会場をパーティションで仕切って、子どもたちはボランティアのお兄さんお姉さんたちと遊戯スペースで遊んでいます。シンポジウムでは、シングルマザーの生活難の話や子どもたちへの学習支援、進学にかかる経済支援の話など幅広く子どもの貧困にかかる問題が紹介され、また子ども食堂を実行されている方や学生ボランティアから体験談や問題意識の表明がありました。その後、参加者がいくつかの小グループに分かれてのグループトークとなりましたが、たいへん熱のこもった意見交換がおこなわれておりました。ちなみに、筆者も思うところをいろいろ喋ったところですが、若い人たちのいろいろな話を聞いてみて、むしろ筆者の頭の固さを反省するところが大でした。

なお、今回のイベントに東京キワニスクラブからの参加は、会員14名にサークルK武蔵野大学から4名、さらに入会希望中の方を含めて、全体で21名となっています。東京キワニスクラブの会員・関係者の方々の関心の高さには筆者自身改めて印象付けられました。

(菅野良三メンバーシップ委員長)

「子ども食堂でチャリティシンポ！」に参加をして 2016.12.11

先日、参加をさせて頂きました、NPO法人豊島区子どもWAKUWAKUネットワーク様主催「子ども食堂でチャリティシンポ！」では、とても有益な時間を過ごすことができました。特に印象に残っている3つのことがあります。

一つ目は、会場に入った時の雰囲気です。子どもと大人の距離が非常に近く、一つのまとまりとしてはっきりと認識をすることができました。普段から子どもとのかわりを大切に、常にお互いを思って過ごしているのだと実感しました。僕自身、児童養護施設でスタッフとして子どもと関わる機会が多いので、子どもとの関係性を深めるのが、どれだけ大変かを身をもって感じております。ので、会場の雰囲気の第一印象はとても深く残っております。しかし、実際に子どもと関われる時間が少なかったのは少し残念です。

二つ目は、シングルマザーの方々のお話です。僕自身、母子家庭で育ちました。母一人で働き、家族を想い、動くことの大変さ、を実際のシングルマザーの方たちの実体験から感じることができました。

最後に、実行委員会の大学生たちの「本気」が印象に残っております。フリートークの際にも、彼らは確かな数字や、国の調査結果などをもとに具体的な話をしていたのはも

ちろんですが、彼ら自身の言葉で自分の思うことを私たちに伝えてくれました。「本当はこのような状況はあってはならない。」といていた実行委員長の中村さん。当たり前のことではあるが、それを敢えてあの場で伝えたことが素晴らしいと感じた。日本の子ども貧困は社会問題化しているが、この出来事に深く関心を持ち調べ、行動し、改善をしようとしている人は一体どれ位いるのだろうか。もちろん、貧困だけではない。低迷する日本の国内情勢。正しく調べ、考え、アクションを起こすことがとても大切である。そして、僕自身、一人の「子ども」として、物事を探求し、考える時間がたくさんある今に感謝し、学びを進めていきます。

自分を見つめなおすとてもいい機会となりました。これからもキワニアンとして子どもとの関わり方、世界との関わり方をしっかり行動から学んでいきます。

(サークルK武蔵野大学広報長 三浦匠吾)

12月11日に、初めて子ども食堂に参加させて頂きました。結論から言うと、思っていた活動とは異なったことと、もっとこうしてほしいという部分はありましたが、良い経験になりました。

思っていた活動と異なったということについて。参加させていただく前は、貧困や個食など食事を満足にできない子ども達とワイワイしながら食事をするものと考えておりました。しかし、実際は子ども達と大人は戸で仕切り、「日本の子どもの6人に1人が貧困」という問題・改善策について考えるというものでした。他の大学や社会人の方たちも一緒であったということで、ゼミなどでもなかなかできない経験であり、勉強になり、楽しい話し合いです。



もっとこうしてほしかったということについて。「6人に1人」と言われても実感が無く、私は本当にそうなのかという疑問を持っております。そのため、子育てに苦しむシングルマザーの方々、今回の子ども食堂の進行をなさっていた女性には、もっと具体的な貧困の状況・子育てについて話して頂けたらさらに良かったと思います。当事者にしかわからないことであり、我々参加者が知ることでより濃密な話し合いが可能になると思います。プライバシーにも関わるので無責任にもっと言ってほしいというのは好ましくありませんが、日本の子どもの貧困を改善していくためには必要ではないでしょうか。

初めて参加させていただいたのに偉そうなことを言ってしまったが、本当に良い経験になりました。自分のプライベートを削って子ども達を支援する熱い学生や、シングルマザーの経験話を話して下さった女性など、また1つ知らない世界・人間を見ることができて良かったです。ぜひまたの機会に参加させて頂ければ幸いです。

(サークルK 武蔵野大学 伊藤賢也)

12月11日に行われた子ども食堂でチャリティーシンポ!に参加させていただき率直に感じたことは、行く前にイメージしていたのは少し暗めの雰囲気なのではないか思っていたが、実際はとても明るい雰囲気であったということです。このように感じていた方がグループワークの際にもいたので、多くの人が感じたことなのかなと思いました。

この活動を通して、特に印象に残っていることは、中々聞くことのできないシングルマザーのお母さん方や子ども達、実際にボランティアをしている人の話を聞けたことです。シングルマザーの方が昔と現状はあまり変わらないけれども、話すことにより心に余裕が持てるようになったとおっしゃっていたこと、修学旅行に行けて楽し

かったと嬉しそうに話していた子どもたちなど一人一人の思いが詰まった言葉を聞いて、とても印象深く心に残る言葉がとてもたくさんありました。また今まで自分自身が当たり前のように経験してきたことは実は当たり前ではないのだということに気付いた場でした。だからこそ誰でもその経験ができるように、少しでも自分自身が出来ることから手助けをしたいと強く感じました。

多くの人の話を聞き、現状を知ったからこそ、実際に子ども食堂などに参加し、子どもたちと関わっていきたいと思いました。

(サークルK 武蔵野大学 鎌田夏実)

貧困で困っている子どもやその親がいることについて、テレビや新聞などで言っているのを見ます。今までその事をみて特に気にすることがありませんでした。今回このイベントに参加したことで貧困の今の状況を深く知ることが出来ました。私は小学校、中学校、高校、大学とあたり前のように入学し、両親にお金を払ってもらって通っています。学校に通うためには入学費、授業代、制服代、教科書代、交通費などたくさんのお金がかかるということに話を聞いて気づきました。また、お金の問題で制服が買えるか買えないかの状況の人がいることを知り、普通に学校に通えていることがあたり前ではないことを感じる事が出来ました。貧困の状況を知るとともに、自分がどれだけ両親に安心して学校や生活をさせてもらっていたのかを感じさせられ、感謝の気持ちを感じます。この安心して学校に通うことや生活をするを、貧困の子ども達に同じように生活出来るように活動していきたいと思いました。子ども達だけの問題ではなく、



子どもに何とかして心配かけないようにと頑張る親御さんにも助けが必要であると感じました。今回のこの機会をきっかけに、そのような人たちが不安や悩みを打ち明けられる環境を作り、地域や周りの人で協力して問題を解決していけるような社会にしたいです。私は今まで海外の貧困を見ていたけれど、日本でこのような状況があることを知りませんでした。まず自分の国である日本で、自分の知らないところで起こっていることに目を向けていこうと思います。そして、その人々のことを知ってもらうことや、支援をするなど少しずつでも何かをしていければと思います。

(サークルK 武蔵野大学 田中沙弥香)

キワニスドールをつくる会報告

昨年10月～今年1月は、15回のキワニスドールをつくる会を開催しました(東京キワニスクラブのホームページ・トップ画面にも、キワニスドールをつくる会の毎月の開催状況を掲載しています)。

例年1月は、ドールづくりを授業の一環として取り組んでいる大妻中野高等学校が、1年生全クラスでドールづくりをするので大忙しです。大妻中野高等学校では、綿詰めだけでなく、2時間の授業の中で型取りから、裁断、ミシン縫製、アイロン掛け、綿詰め、口縫いまでの全工程を実施します。手際の良い生徒ばかりではなく、じっくり型の生徒もいますが、心のこもったドールが200個以上完成しました。

荏原看護専門学校は学園祭での開催でした。主催は何とキワニス同好会。キワニス同好会があったとは！当日はあいにくの雨でしたが、徐々に来場者が増え、教室はほぼ満席状態に。ほとんどの来場者はドールをご存じない方でしたが、子どもたちへの思いを込めてドールを作ってくださいました。

企業ではMSD等4社で開催しました。MSDは、新入社員研修にもドールづくりを取り入れている熱心な企業ですが、社員にとっても好評なので、全国の営業所でもドールづくりを実施したいとのご要望がありました。せっかくのお話なので、今後は、営業所のドールづくり指導者育成講座の開催等もご協力していく予定です。



年間1,500個以上作成しているドールですが、ドールづくりの輪は着実に広がっています。今年は、新たに西松建設、戸田建設からも、ドールをつくる会を開催したいとのお申し出がありました。CSRの一環としてさがしていたところ、キワニスドールの取組みをみつけられたそうです。3月に、2社で合同のドールをつくる会を初開催する予定です。

ドールをつくる会は年間30回以上開催しています。お時間があるときは是非ご参加ください。心よりお待ちしております。

(田口ボランティア活動委員長)



事務局で、ドールの綿分けと布切にご協力いただいています。

総社市の清音クリニックからキワニスドールのお礼のお手紙をいただきました。

先日は、キワニスドールを2個送って頂き、ありがとうございました。

当クリニックのキワニスドールが完成しましたので、お礼とともに報告させていただこうと思います。

私は、このクリニックに就職し、初めて小児科に勤め、「プレパレーション」という言葉を学びました。注射や点滴、日常の診察いろいろなものに対し、子どもにも「心の準備」の時間を設ければ、納得し、受け入れ、スムーズに診察・処置に臨めることができるというものです。

絵を見せたり、お話をすることで納得するものもありますが、なかなか受け入れがたいものに、注射と点滴がありました。そこで、キワニスドールの存在を知り、これを点滴や注射のプレパレーションに活用できないかと考え、請求させていただいた次第です。

届いたキワニスドールの第一印象は、肌触りがよく、触っていて気持ち良いと感じました。同封の資料を読み、1個1個、いろいろな人が想いをこめて手作りされていて、驚きました。想いのつまったこのドールを、上手に生か

そうと思えば思うほど、顔を描くにも緊張しました。服は、同僚が昔、自分の赤ちゃんのために編んだものを譲って下さり、素敵なドレスを着ることが出来ました。腕のグリーンのゴムは、当クリニックの駆血帯と同じ色のゴムです。注射器は、怖くないように、先の丸いオモチャの注射器です。

処置の前に時間を作り、これから行う治療の説明を、本人とご家族にします。その際に、このドールに緑のゴムをくくり、こうやってするんだよ。少しチクンと痛いけど、頑張ろうねと声をかけます。準備の間、このドールに注射をしたり、ごっこ遊びで遊んで待ってもらいます。その間に、年齢にもよりますが、本人の受け入れができるようです。

キワニスドールの存在を知り、出会えたことに感謝い



たします。

未永く、愛用させていただきたいと思います。

(清音クリニック スタッフ一同)

キワニスドール寄贈先訪問記 2017.1.30

1月30日、キワニスドールをご希望された日大病院と東京女子医大病院に、狩野会員とともにドールを持参しました。医療機関からドールのご希望があると、事務局から宅配便でお送りするのですが、ボランティア活動委員会で協議し、今回は医療機関との関係構築及びコミュニケーション強化のために、できるだけご訪問するようにしました。

日大病院小児科からは110個のご希望です。1か月に10～20人の子ども達にドールを提供するので、これだけあっても今年中には使い切ってしまうのだとか。看護師長と保育士の方からはドールについてこんなお話が…。「子ども達にドールを渡して、自由に絵を描いてもいいよ

と言うと、(人形に悪戯描きすると)怒られないかな?と思うみたいで、みんな驚くんです。」「絵を描いたドールは、その子にとって特別な存在みたいで、あやしても泣き止まなかった子が、ドールを渡すとピタリと泣き止むんですよ。」

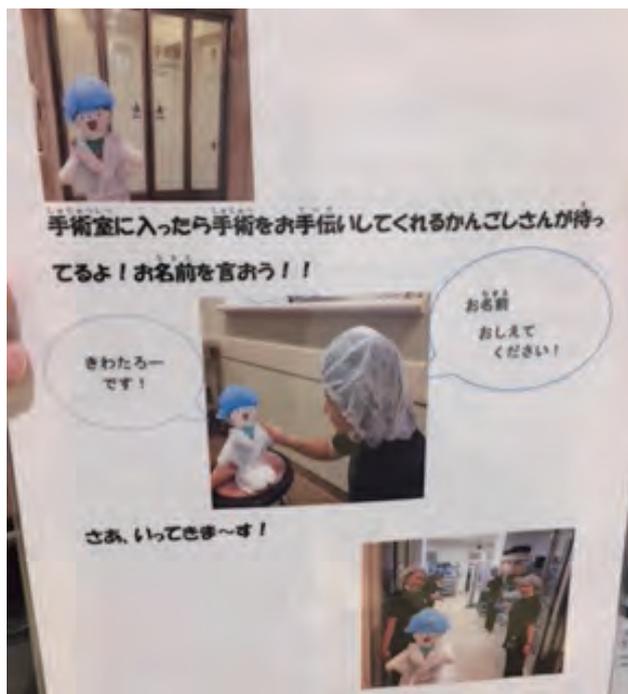
また、プレパレーションでもドールは活躍していました。「医療処置について言葉で説明してもわからない小さな子ども達には、ドールを使って事前に治療内容を説明し、理解してもらい…」と説明を聞きながら、実際に使用しているプレパレーションドールと説明資料の写真をよく見ると、ドールには「きわたろー」という名前が?? (フォト参照)

次にご訪問したのは東京女子医大病院がん相談支援センターです。ご対応いただいた看護師とソーシャルワーカーの方によると、親ががんになった子どものサポートプログラムで、今回はじめてお使いになるとのことです。がん治療中の親を持つ子ども達が集まって、お互いの状況や気持ちを伝えあうグループワークの中で、ドールに絵を描いて少しでも楽しい時間を過ごしてほしいというお話でした。

今回の寄贈先への訪問を通して、白いシンプルな人形が、子ども達ひとり一人のオリジナルなドールやプレパレーション用のドールになることによって、子ども達の心の支えになったり、医療関係者と子ども達の心を通わせるコミュニケーションツールとなることを改めて実感しました。

キワニスドールの作り手の想いと、使い手の気持ちが繋がるように、これからも取組んでいきたいと思います。

(田口徹ボランティア活動委員長)



一般社団法人東京キワニスクラブ定時総会開催 2016.11.25

11月25日の12時40分から法曹会館2階高砂の間で定時総会が開催されました。議案は①平成28年9月期事業報告及び決算、②公益目的支出計画実施報告に関する監査報告、③理事・監事選任でした。吉國会長が定款19条により議長を務め、開会宣言を行い、石井事務局長が定足数の確認の結果、総会が有効に成立してい



る旨を報告しました。議案の審議に入り第1号議案について石井事務局長から事業報告、鏡川財務委員長から決算報告が第2号議案について鏡川財務委員長から報告があり各議案の報告後毎に伊藤監事が監査の結果、各報告書等が正しく示されている旨の報告を行い、さらに議長がその都度、決を採ったところいずれも満場一致で承認されました。第3号議案に関しては吉國議長から理事会推薦の理事候補者一覧の説明があり、これを諮ったところ理事候補者全員について満場一致で承認され、続いて議長から理事会が監事候補者を推薦するにあたり監事全員の同意を得た旨及び各監事候補者の説明があり、これを諮ったところ監事候補者全員についても満場一致で承認されました。以上で総会は終了し新旧会長・事務局長から退任、新任の挨拶がありました。直後の臨時理事会で棚澤理事が新会長に互選され副会長、事務局長、委員長等の業務執行理事の分掌等も決まり新体制でのクラブ運営が始まりました。

(石井亜佳理前事務局長)

東京キワニスクラブ新年互礼会 2017.1.6

平成29年の新年互礼会は、1月6日(金)午後5時半より銀座ライオン6階クラシックホールにて開催されました。当日ホールには88名の会員、並びにご家族の方々が集い、楽しく和やかに新年を祝いました。



初めに棚澤会長からご挨拶をいただき、恒例となっています年男・年女の方々による鏡開きが行われました。東京クラブの西年生まれの会員は、昭和8年・昭和20年・昭和32年・昭和44年生まれの14名の年男の方々です。

当日ご出席の仁平会員・西村会員・漆間会員・伊藤会員・古橋会員・樋口会員の6名の皆様で、威勢よく鏡を開き

会場はいっきに盛り上がりを見せました。そして昭和8年お生まれの仁平会員のご発声で乾杯となりました。

楽しいひと時はあっという間に過ぎ、少し早目の午後7時には増田副会長からご挨拶をいただき、互礼会は中締めとなりました。

当日の司会は事業企画委員会の曾又圭二副委員長と、子ども食堂でご協力いただいている立教女学院短期大学の中村みどりさんにお手伝いいただきました。

(曾又圭二事業企画副委員長)



沖縄キワニスクラブ認証状授与式・祝賀会に参加して 2016.11.25

2016年11月25日（金）に開催された沖縄キワニスクラブ認証状授与式・祝賀会に、東京から藤原国際キワニス日本地区ガバナーと私が参加いたしました。沖縄の新メンバーのほか札幌クラブを含む全国17クラブのキワニアンが集まり、総勢百人を超える盛大なセレモニーとなりました。

藤原ガバナーによる認証状授与に続き、来賓として参加された城間那覇市長からは我々のボランティア活動に対する期待と心のこもった祝辞を賜りました。

認証状授与式に続いて開催された祝賀会の冒頭、興南高校エイサー隊総勢7人による大太鼓と小太鼓の沖縄伝統芸能「エイサー踊り」が披露されました。沖縄民謡に合わせた統一感ある踊りの勇壮さと、打楽器による大音響に会場一同圧倒されました。

続いてドール贈呈に移り、今回のドール作りに参加した熊本キワニスクラブと地元ボランティアの女子高校生から南部医療センター・子ども医療センター岸本副院長、琉球大学小児科金城医局長、平安病院瀬底事務局長にキワニスドールが手渡されました。

祝宴では宮古島特産の泡盛「菊之露」が振舞われたこともあり、会場内は時間がたつのも忘れて大いに盛り上がりました。

最後は佐藤国際キワニス日本地区次期ガバナーによる「万歳三唱」と添石沖縄キワニスクラブ副会長の「閉会の辞」でお開きとなりました。

（新木資明会員）



鹿児島キワニスクラブ10周年記念式典・祝賀会に出席して 2016.10.21

表題の式典・祝賀会が城山観光ホテルで開催され、東京クラブ会長代理で参加致しました。鹿児島県内外のゲスト、キワニスクラブ各地の役員・会員、来賓の方々など150名を超える参加者でした。

「五つ太鼓」の演武で勢い良いスタートを切り、新会長の開会挨拶、フリースクール「麻姑（まこ）の手村」への社会貢献活動の表彰が厳かに進められ、そして特別講演は「尚古集成館」館長田村省三様の「新しい世界遺産とかごしまー可能性への挑戦ー」でした。尚古集成館は鹿児島県にある世界遺産のひとつである。2018年のNHK大河ドラマ「西郷どん（せごどん）」の話、薩摩の政治経済、人材教育の歴史、明治維新から近代初期にかけてなぜ薩摩出身の偉人が多かったのかを、わかりやすく講演して頂きました。歴史大好きの私にとって、息をするのも忘れるほどに聴き入りました。

後半の祝賀会は、島津義秀様（勿論あの島津様です！）

の「薩摩琵琶の弾奏」でした。

テレビニュースでお見受けする三反園鹿児島県知事と森鹿児島市長がご祝辞を下さいました。祝賀会では、鹿児島郷土料理と焼酎がふんだんに振る舞われ、鯛腹頂きました。

翌朝、大雨警報発令でゴルフツアーは中止。私は予定通りバス遠足コースに参加、桜島、尚古集成館、昼食、英国留学生記念館を見学した。前日の特別講演の復習の実地見学で鹿児島の歴史がしっかり頭に入った。

桜島から錦江湾を渡りながら、「鹿児島の小学6年生全員が夏休み初めに、錦江湾4KMを遠泳する」と聞いた。錦江湾水深は200メートルもある。薩摩「郷中教育」は、連綿と引き継がれているのである。

留学生記念館でお勉強したこと。1863年薩英戦争でイギリス艦隊と戦火を交えてから2年後、藩士19名を英国留学させる薩摩藩の英断、受け容れるイギリス帝国の政治判断。往路は20名団体脱藩小舟ツアーで出立、藩士1名片道旅費は2500万円相当だと、記念館説明員の回答。帰りは各自自己責任とのこと。五代は1年後に無事帰国し、朝ドラ「朝が来た」で大人気を博した。

篤姫の江戸城明渡しの際の見事な行動、西郷が戊辰戦争で旧藩士族を引連れ自刃し明治近代化を実現させたこと、大久保利通と五代友厚が日本近代経済の礎を築いたこと。これらに思いを馳せた遠足だった。来年の大河ドラマ「せごどん」が待ち遠しい。

二日間の雨模様は、島津藩では祝い事や神事には縁起が良いとされる「島津雨」だった。

（寺崎志野広報委員長）



2016年10月～2017年1月までの活動

2016年10月	4	火曜会
	6	UBS証券ドールをつくる会
	6	宝塚観劇会(宙組公演)
	7	第2239回例会(講師:小西雅子氏)
	8	荏原看護専門学校学校祭ドールをつくる会
	11	火曜会
	13	第86回日本酒を楽しむ会
	18	靖国神社秋季例大祭
	18	火曜会
	19	PGF証券ドールをつくる会
	19	日本醸造学会懇親会
	20	第26回ワインを楽しむ会
	21	第2240回例会(講師:近石康宏氏)
	21	鹿児島クラブ設立10周年記念講演会・式典・祝賀会
	24	第76回国際懇話会(講師:塩尻孝二郎氏)
	25	火曜会
	25	第108回囲碁愛好会
	26	秋季ゴルフ大会
	26	MSD社会貢献プログラムドールをつくる会
	27	宝塚観劇会(星組公演)
29	フォッグ・浦田陽子とウィーンの仲間たち	
30	バレエを楽しむ会(新国立劇場)	
30	児童虐待防止オレンジリボンたすきリレー	
2016年11月	1	火曜会
	5	田園調布学園ドールをつくる会(土曜プログラム)
	8	火曜会
	10	第87回日本酒を楽しむ会
	12	中村芝翫襲名披露公演(歌舞伎座)
	15	火曜会
	17	小さな天使 ドールをつくる会
	18	第2241回例会(講師:草薙直基氏)
	22	火曜会
	22	第109回囲碁愛好会
25	第2242回例会(定時総会)	
25	沖縄キワニスクラブ認証状授与式並びに祝賀会	

2016年11月	28	指導ボランティア育成講座(キワニスドール)
	29	火曜会
	29	東京子ども専門学校ドールをつくる会
	29	新旧役員懇親会
2016年12月	1	東京家政学院ドールをつくる会
	1	宝塚観劇会(雪組公演)
	2	第2243回例会(講師:高田都耶子氏)
	4	第51回文楽を楽しむ会
	6	火曜会
	8	第88回日本酒を楽しむ会
	10	囲碁大会(第110回)
	10	忘年会(電気倶楽部)
	11	子ども食堂でチャリティシンポ!
	11	第51回文楽を楽しむ会
	13	火曜会
	15	ウエルスファーゴ証券ドールをつくる会
	16	第2244回例会(福山雅史氏)
	20	火曜会
	20,21	演劇(ヘンリー四世)を楽しむ会
	28	第九を聴く会(サントリーホール)
2017年1月	6	第2245回例会 新年互礼会
	7	新春大歌舞伎(歌舞伎座)
	10	火曜会
	17	火曜会
	19	宝塚観劇会(花組公演)
	20	第2246回例会(松井宏夫氏)
	22	大相撲初場所観戦会
	23	大妻中野ドールをつくる会
	24	火曜会
	24	第111回囲碁愛好会
	25	第5回オペラを楽しむ会(カルメン)
25	大妻中野ドールをつくる会	
26	大妻中野ドールをつくる会	
28	大妻中野ドールをつくる会	
31	火曜会	

2017年2月～3月 今後の予定

2017年2月	3	第2247回例会(露口洋介氏)
	5	第52回文楽を楽しむ会
	6	指導ボランティア育成講座(キワニスドール)
	7	火曜会
	7	札幌クラブ雪まつり例会
	9	第89回日本酒を楽しむ会
	10	東京医療秘書福祉専門学校ドールをつくる会
	11	第6回オペラを楽しむ会(蝶々夫人)
	12	第52回文楽を楽しむ会
	14	火曜会
	16	小さな天使 ドールをつくる会
	17	第27回ワインを楽しむ会
	17	第2248回例会(牧野知弘氏)
	19	第52回文楽を楽しむ会
	21	火曜会
	23	宝塚観劇会(月組公演)
	2017年3月	26
27		MSD(地域指導者育成研修)ドールをつくる会
28		火曜会
28		第112回囲碁愛好会
3		第2249回例会(講師:武藤正敏氏)
7		火曜会
9		第90回日本酒を楽しむ会
9-11		A S P A C 済州大会
2017年3月	10	西松建設・戸田建設ドールをつくる会
	14	火曜会
	17	第2250回例会
	17	第77回国際懇話会(講師:佐渡島志郎氏)

2017年3月	21	火曜会
	26	第7回オペラを楽しむ会(ルチア)
	28	火曜会
	28	第113回囲碁愛好会
	31	第2251回例会(講師:柴谷哲郎氏)
2017年4月	1	個性派ガイドによる「谷根千ミステリー散策ツアー」
	4	火曜会
	7	第2252回例会
	11	火曜会
	13	第91回日本酒を楽しむ会
	18	火曜会
	21	第2253回例会
2017年5月	25	火曜会
	25	第114回囲碁愛好会
	2	火曜会
	9	火曜会
	11	第92回日本酒を楽しむ会
	13	田園調布学園ドールをつくる会(土曜プログラム)
	16	火曜会
	18	第28回ワインを楽しむ会
	19	第2254回例会
	23	火曜会
2017年5月	26	第2255回例会(第67回ファミリーデー 於:椿山荘)
	30	火曜会
	30	第115回囲碁愛好会

■平成29年1月31日現在 総会員数 218名

■平成28年10月1日から平成29年1月31日までに入会された方 3名

飯塚和憲、高山温子、雲類鷲孝

東京クラブの活動

● キワニスドール

身長約40cmで体重約50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子どもたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気の子どもの人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用事例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウム2016年からはキワニスドール・フェスティバルを開催しています。

キワニスドール (Kiwaniis Doll) を平成18年7月14日に、商標登録し、平成28年4月19日に更新いたしました。

● キワニス子ども食堂

ひとりっ子・共働き・シングルマザー・ファザー等から「孤食」が増加する中で、世代を超えて楽しく語り合いながら、「美味しく」食べる機会の提供として、「キワニス子ども食堂」を学生会館精養軒等とともに開催しています。また、その進化系として、「キワニスカんたん子ども料理教室」を豊島園の協力を得て開催しています。

● キワニス奨学金 (児童養護施設卒園進学者支援制度)

児童養護施設から大学・短大・専修学校への進学者向けに年間40万円 (最長4年間) の奨学金 (生活サポート) 制度を2016年にスタートさせました。現在は2名の学生を支援しています。奨学金は会員からの寄付で賄っています。

● 表彰

キワニス「社会公益賞」 社会公益のために長年献身的に取り組んでいる団体を表彰しています。

東京キワニスクラブ「青少年教育賞」 国際的な活動を含め奉仕活動に積極的に取り組んでいる青少年団体を表彰しています。

キワニス「奉仕賞」 キワニスクラブの奉仕活動に協力する学生サークル、団体を表彰しています。

● SLP (学生・生徒版キワニスクラブ) 活動

高校生のクラブ、座間アメリカンハイスクール・キークラブと大学生のクラブ、サークルK武蔵野大学、若者による既存のサークル活動を支援するキワニス・ユースフォーラムがあり、若者のボランティア活動を支援しています。

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ先住民の言葉“Nun-Kee-Wanis” (みんな一緒に集まる) に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約85ヶ国、7,300のクラブ、約20万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎、宮崎、佐賀、秋田、大垣、福井、沖縄、徳島の順に生まれ、現在35のクラブで会員は約1,950名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 棚澤 青路 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>